



見慣れた症状でも注意深く観察して、自分や家族が受けたい診療を

2014年7月取材

岡山県岡山市
よこやま腎泌尿器科クリニック 院長
横山 光彦 先生

横山光彦先生は、大学病院等で泌尿器疾患の診療に長く携わるうち、患者さんのQOLを大きく左右するにもかかわらず、受診のハードルが高いといえる泌尿器疾患を診る科こそ、地域にあるべきとの考えに至りました。そして2013年秋、泌尿器科の専門クリニックがわずかしかなかった岡山市に、よこやま腎泌尿器科クリニックを開院しました。

泌尿器科疾患の情報発信に努める

横山先生は、泌尿器科疾患の中でも、前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱といった排尿障害に関する疾患を専門にしてきました。特に過活動膀胱は、潜在的な患者数が多いにもかかわらず、以前は一般の認知度が低かったそうです。2002年に国際的に定義が変更となり、それ以降新薬の発売やテレビコマーシャルなどのメディアで広く伝えられ、受診患者数が増えました。「過活動膀胱の認知度が上がっていく過程を見ながら、疾患の症状や治療方法などの情報発信が極めて重要であると改めて認識しました。泌尿器科がカバーする疾患や検査、治療法が一般の方には分かりにくく、泌尿器科を受診すべき症状があってもどこの診療科を受診すべきか分からない方や、泌尿器科を受診しようと思っている患者さんにとっても泌尿器科は敷居が高く、受診をためらう方も大勢おられます。そこで、泌尿器科に関する正しい理解を促すような情報発信をしようと思いました」。横山先生は、どのような症状や疾患を泌尿器科が扱うのかを患者さんに知ってもらうために、同クリニックのホームページに、泌尿器科を受診する契機になる症状や代表的な疾患についての説明を掲載しています。現在同クリニックを訪れる初診患者さんの約半数がホームページの閲覧をきっかけに来院されています。



診察室に置かれている超音波診断装置。センサーの役割を担うプローブは、腹部用と経直腸用の2種類を備えています。

細心の注意を払って、隠れた疾患を見逃さない



尿流量測定機能付きの検査専用のトイレです。この他、待合室近くに車椅子でも楽に利用できる広いスペースのトイレが2室あります。

同クリニックを受診する患者さんの約半数は排尿障害を主訴とし、多くは薬物治療を受けています。横山先生は、見慣れた症状であっても重大な疾患を見逃していないか丹念に調べます。「頻尿を主訴に受診された患者さんの中には、膀胱癌や前立腺癌などの悪性疾患が合併していることもあります。また、頻尿や尿失禁の中には、実際には残尿が多く、尿があふれて漏れている溢流性尿失禁によることもあります。常に適切な評価を行って治療にあたるのが重要と考えています。実際に、検査や治療を行うにあたっては、できるだけ侵襲の少ない検査や治療を優先して行うように心掛けています」。手術が必要な場合は、連携病院の開放病棟を利用して横山先生が自ら行うこともあります。また、放射線治療や開腹手術などの大がかりな治療が必要な場合は、その疾患において最も適切と思われる専門病院へ紹介しています。

幅広い医療知識を広く身に付ける

横山先生は、地域のさまざまな診療科の医師たちが集う会合への参加に積極的です。同クリニック周囲の医師が顔をそろえる地区会をはじめ、他の診療科の勉強会にも参加しています。「勤務医時代は自分の専門分野のみ勉強すればよかったのですが、開業後は専門外の相談を受けることも多く、より広い医療知識を身に付ける必要があると感じています。また勉強会に参加することは、医学的な知識の習得だけでなく、近隣の先生方と顔の見える関係になるためにも有益です。自分の大事な患者さんを顔の見えない医師に紹介することはありません。そのため、近隣の優秀な一般医の先生と普段から良好な関係を築くことが重要と考えています」。開業して1年で、すでに40を超える医療機関や他の診療科の先生方から患者さんの紹介があったそうです。



同クリニックでは、仕事で平日の受診が難しい患者さんのために、予約制で土曜の午後も13時から15時まで診療を行っています。